

来週の市場とレート予想

上田八木証券株式会社

	4/30(月)	5/1(火)	5/2(水)	5/3(木)~5/4(金)	5/7(月)	5/8(火)	5/9(水)	5/10(木)	5/11(金)
無担保O/N		△0.086%	~	0.001%		△0.086% ~ 0.001%			
銀行券		△1,800		△1,000	+5,000	+4,000	+3,000	+2,000	+2,000
財政他		△12,600		△8,000	△45,000	+3,000	△22,000	△8,000	△4,000
資金需給		不14,400		不9,000	不40,000	余7,000	不19,000	不6,000	不2,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)	消費税・法人税・保険揚げ 交付税特会借入・償還		消費税・法人税・保険揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(10年)	国庫短期証券発行・償還(6M) 交付税特会借入・償還	10年物債連動国債発行
オペ期日		共通担保(全店) △1,500 CP等買入 △200 補充供給 +1,500		祝日	共通担保(全店) △2,000				
オペスタート		共通担保(全店) +2,400							
(日本)			マネーベース(4月) 日銀営業毎旬報告 (4月30日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期 証券の銘柄別買入額		金融政策決定会合の 議事要旨(3月8、9日分)		景気動向指数(3月)	金融政策決定会合に おける主な意見 (4月26、27日分) 国際収支(3月)	マネーストック(4月)
(海外)	米中古住宅販売完成 指数(3月)	米FOMC(2日まで) 米ISM製造業景況指数 (4月)	米FOMC政策の発表 米ADP雇用統計(4月) 欧ユーロ圏GDP (1~3月、速報値) 欧ユーロ圏失業率(3月)	5月3日 米週間新規失業保険 申請件数(28日終了週) 米ISM非製造業景況 指数(4月) 米製造業受注(3月) 米貿易収支(3月) 5月4日 米雇用統計(4月)	米アトランタ連銀総裁講演		米生産者物価指数(4月) 米アトランタ連銀総裁講演	米CPI(4月) 米週間新規失業保険 申請件数(5日終了週) 米財政収支(4月) 欧ECB経済報告	米シカゴ大学消費者 マインド指数(5月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.06 ~ 0.03
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.03
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.06
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.12

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、386兆100億円から始まった。その後、財政等要因により385兆円台に減少したが、25日の国債買入れ等を主に増加し、週末には388兆5,700億円となった。無担保コールON物は、資金余剰感が強い中で大型連休を控え、ビッドサイドが慎重になったこともあり、週を通して軟調な地合だった。同加重平均金利は△0.072~△0.068%のレンジで推移した。ターム物は1~2W物を中心に△0.06%台での取引が中心となった。27日、日本銀行は金融政策の現状維持を決定した。また、展望レポートでは、2%の物価目標の達成時期について、これまでの「2019年度頃」との表現を削除した。来週は、FOMC政策の発表(5月2日)、ユーロ圏CPI(5月3日)、米雇用統計(5月4日)等が予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.001
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆8,200億円、週間償還総額の約1兆700億円を大幅に上回った。月末日スタートの発行では50社程度の企業の発行が見られ、償還額の約7,400億円に対し、発行総額は9,400億円程度となった。月末の発行市場残高は、16兆2,000億円程度になった模様。発行レートは、大型案件や発行残高が積みあがっている企業においても、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、概ねマイナス~0近辺の出合いであった。24日にオファーされたCP等買入オペ(2,500億円)は、按分落札レートを△0.005%、平均落札レートを0.002%と、前回オペ(按分△0.013%、平均△0.008%)に比べ上昇した。来週の償還総額は、約1,000億円となっている。連休の狭間に当たり、発行案件は減少し、閑散な市況を予想する。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。5月の1回目のCP等買入オペは、連休明け8日に2,000億円程度でオファーされる予定。

<TDB>

26日に行われた国庫短期証券3M754回債の入札は、最高落札レート△0.1358%(前回債△0.1744%)、平均落札レート△0.1556%(同△0.1804%)と前回債からマイナス幅を大きく縮小した。セカンダリー市場は3Mが△0.145%、1Yが△0.165%で出合が見られた。来週は5月2日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.13%~△0.14%近辺。月末取引となる27日受渡しは、S/Nで△0.13%近辺から出合いが付き始めたが、△0.11%~△0.105%まで上昇。T/Nでは△0.09%台の取引も見られた。5月受渡し以降は、短国3Mの発行もあり△0.085%まで上昇。週末は△0.10%近辺の出合いが中心となった。SC取引では10年350回債のbidが多く、週初△0.10%半ば~後半。25日の国債買入れオペ後は△0.20%台半ばの出合いが見られた。5年135回債は週を通して概ね△0.10%台半ば~後半で取引された。他2年387回債、5年134回債、10年340・341・342・346・347・348・349回債、20年163・164回債、30年56・57・58回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。